交流し、学び合う
職場新聞実務者たち

三池労組が、参加者は三十数人にのぼっていた。

二の両日、玉名郡三加和町「三和荘」職場新聞実務者会議を開催、各職場新聞活動の今後の発展のために学び合い、交流した。

会議には各指導部から、ほとんどの職場新聞活動家が参加した。

今回はとくに、日本機関紙協会九州支部の森一作事務局長を講師に招き、「職場新聞活動の現状と課題」というテーマで話してもらい、それにもとづきながら各職場新聞活動の実際の経験をだし合い交流を深めた。

森講師の話の内容はいずれ詳報することとなろうが、その豊富な経験にもとずく内容が、今回集まったすべての活動者をひきつけ、「これは職場新聞実務者ばかりでなく、だれにでも聞かせるべきだ」との希望がだされたほど。本部は希望を春闘統一学習会に生かしもう一度、同講師の招請を計画している。

職場新聞の発展を、心から期待しておく。

炭労の政策提言報告集会
（報告しているのは松橋副委員長）

炭労 政策提言を準備
石炭の見直しめざし討論

炭労は三日、大牟田市の福祉センターで"石炭政策提言北海道シンポジューム報告集会"を開催、九州の関係者と交流、石炭政策提言をまとめるための意見を聴取した。

集会には三池と高島の両労組ばかりでなく、福岡失業組合連合会（筑豊）や大牟田の離職者対策協談会など百人近くの人びとが出席し、本部から松橋副委員長をはじめ野呂事務局長、古賀次長に、山田炭労九州地本委員長らがかけつけ、だされる意見の一つひとつに耳を傾けた。（詳細は後日伝える）

炭労 またまた合理化攻撃
賃金など遅欠配のおそれも

資本の合理化攻撃と苦しい闘いを続けている北炭労働者に、会社側はまたもむごいばかりの新たな合理化を提案してきて、怒りを呼び起こしている。

六日、北炭の会社は北炭労連に対して、ひどい合理化計画を提案してきた。「一月からの、夕張新鉱の出炭減と原料炭比の悪化によって、大きく資金対策に狂いが生じた」、というのが理由だが、提案の内容は次のようなものとなっている。

一、緊急増産対策として、二～三月に休日出炭を実施する。
二、作業管理・職場規律の確立をはかる。
三、公私傷者を減少させるため厳正な処置をする。
四、出勤不良者から、福利厚生費を一部徴収する。

右のほかに、賃金の遅欠配などを押しつけようとしてきており、事実が示すように働く者としてとうてい耐え切れぬものとなっている。

炭労は北炭資本や政府（通産省）に対して、賃金支払いの確保など緊急申し入れを行なうとともに、解決困難な場合、北炭労連下全支部の実力行使を計画、闘うことをきめた。

事務局長は、産業別闘争と地域闘争を結合し、創意性を発揮しながら七八春闘を闘い抜こうと呼びかけ、次のように全労働者の決起を求めている。

×

福田内閣が作成した超大型予算は、新幹線や高速道路建設など、大資本本位の公共事業に重点をおき、われわれが要求する生活と雇用を守るための予算になっていない。今は、個人消費の拡大、福祉向上、生活基盤充実をめざす政策の実現に向けて、予算を修正する闘いが必要である。

いま日本の完全失業者は百十一万人。賃上げと雇用という課題があるが、そのためにはかってない日本経済の危機に労働組合がどう闘うか、真価を問われる春闘となろう。

春闘は産別自力で、産別機能を強め、統一闘争を強化すべきで、四月中旬以降に闘いを集中することとなろう。

日本の組織労働者は千二百万人で、未組織労働者が二千数百万人にのぼる。不況のシワヨセは、下請、中小企業に向けられている。

従来の経験にこだわらず、創意性を発揮して、悔いなく闘おうではないか。（総評新聞から）

創意性の発揮を
富塚総評事務局長　七八春闘を語る

"総評新聞"（総評発行の週刊新聞）の二月十日号は、その一面に春闘に対する富塚総評事務局長の重大な談話を掲載している。同

発展する日本の防衛力は
アジアの脅威ではないか
朝日新聞の"天声人語"から

朝日新聞の二月十六日朝刊"天声人語"（一面最下段）は、平和日本にとってきわめて恐ろしい、重大な問題について一つの指摘を行った。わが国の現実について一考していただくために、全文を紹介した。

編集部

F15という戦闘機は、一機が六十一億円もするという。寝たきり老人の施設なら、三十カ所分に相当する額だ。

高い買い物である。防衛庁はそれを、十年間で百機そろえようとしている。

対潜水艦用のP3Cもまた、一機が六十三億円である。これを十一年間で、四十五機そろえる計画だ。

政府は国会で、「F15もP3Cも戦力ではない」と答えているが、世界の最高水準にあるこれだけの飛行機が戦力でないとすれば、戦力とはいったい何か、自衛力の限界とは何か、などをあらためて問題にする必要がある。もともとあいまいだった自衛力の限界なるものが、ここのところさらにぼやけて、あやふやになりつつあるような気がする。

防衛力強化論が高まっている。たとえば金丸防衛庁長官の、「敵に脅威を与えなくて何の防衛か」という発言があった。これは、「他国に脅威を与えるがごときものは、自衛力の限界をこえる」というかっての佐藤首相発言をはみだすものではないか。

「防衛手段のみでは、わが行動圏外から威力を発揮する攻撃行動には有効に対処しえない」、という自衛隊幹部の発言もあった。専守防衛論の否定をほのめかすような主張だった。「恐れられる自衛隊」をめざす風潮が、しだいに力を得ているようだ。

「空中給油機は持たない」という約束が、最近では「空中給油機を持てないとは考えない」、と微妙に変わって行くのをきくと、いまにICBMと長距離爆撃機以外はすべて「戦力」ではなくなり、「合憲」になってしまうのではないか、という強い不安にとらわれる。

高まる防衛論の背景には、福田首相のタカ派的な体質もあるだろう。不況の問題もからんでいる。日本の防衛努力に対する、アメリカの強い注文があるはずだ。しかし、アジアの中の日本という視点を見落としてはならない。

現在、日本の国防費は世界九位で、アジアでは中国に次ぐ。海上自衛隊の艦船トン数も世界八位でアジアではやはり、中国に次ぐ。

平和国家日本の軍備が、アジア諸国の「脅威」であってはならない。

（行の整理、句読点は読みやすくするために、編集部で改めたものです）

総評が文学作品募集
三池からどしどし応募しよう

こんど総評は"第十五回総評文学賞作品募集"を行ないます。次の募集要項にもとづいて三池からどしどし応募しましょう。

文芸作品募集要項

(一)種目　「短篇小説」「ルポルタージュ」「詩」の三部門。形式および取材対象は自由。

(二)応募作品の制限　①作品は書き下ろし。または昭和五十二年五月十六日から五十三年五月十五日までの間に、各単産、県評のサークル詩、その他に発表されたものでも可。（当落を問わず）②各単産の推せん作品。

(三)原稿枚数　短篇小説、ルポルタージュは四百字原稿用紙五十枚以内。詩は百行以内。

(四)応募資格　春闘共闘参下組合員。

(五)入選作品の発表　総評定期大会席上。

(六)審査員　交渉中。

(七)賞金　小説＝入選一点十二万円、佳作数点三万円、特別賞一点十二万円。ルポルタージュ＝入選一点十万円、佳作数点一万円、特別賞一点十万円。詩＝入選一点四万円、佳作数点一万円、特別賞一点四万円。

(八)締切り　五月十五日必着のこと。

注意事項

一、応募者は氏名（ふりがな）、年齢、住所、略歴と上部単産名、単組名、職場名を明記し、電話のある方は電話番号を、また氏名、ペンネームを明確に。

一、応募作品は一切返却しませんので、各自コピーをして下さい。

一、入選作品の版権は総評が取得する。

一、作品の送り先は「東京都港区公園一ノ八ノ三。総評教宣局文学賞作」宛。

×

なおお問い合わせは、三池労組本部内編集部へ。社内電話は「五七六番」です。

豆情報

憲法記念日は無視しても、建国記念日には入れあげる政府。民主主義より神武天皇が大事？

×

不況・失業時代のシワよせでねらわれる中高年層。"窓ぎわ族"は"せとぎわ族"。

×

ロッキードの灰色高官六人は、みんなクロ、と大久保が証言。でも四人は捕まりもしない。